

創造論か、進化論か

創造論の持つ意味

この世界は一体誰が造ったか、偶然できたのか、自然に発生したのか、または神によって創造されたのか。この世界は一つの発明である。発明するには、組み立てるよりも、さらに多くの知恵が必要である。

神をこの世界と、その中のある生命の創造者と認めることは、聖書全体を貫いている信仰である。

詩篇 100:3

「主こそ神であることを知れ。われらを造られたものは主であって、われらは主のものである。…」

黙示録 4:1

「(神の)御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります。」

創造は人間を含めての世界と 神との基本的な関係

- ① この世界も人間も神に依存しているということであり、また神の支配のもとにあるということである。
- ② 創造された世界には神の御目的があり、人間にもそれぞれに神の期待と御計画がある。

イザヤ 43:7

「すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた。」

コロサイ 1:16, 17

「いっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。」

ヨブ記 41:12

「わたしはこれが全身と、その著しい力と、その美しい構造について、黙っていることはできない。」

コロサイ 1:16

「いっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。」

- 進化論
- 1859年 チャールズ・ダーウィン
- イギリスの富裕な医師の父と祖父、進化論支持者、「種の起源」本が出た。
- 三天使の使命に対するサタンの挑戦、もちろんダーウィンは気がついていなかった。

教会への証 3巻 138、139

「現在の動植物は、海中のものも退化し、小さくなっている。巨大な恐竜、人間も、アダム的身長は今の二倍、知力、活力は20倍もあった。その活力が与えられていなかったら、自然の法則にさからった生活習慣では、人間は既に絶滅していたであろう。」

詩篇 14:1

「愚かな者は心のうちに『神はない』と言う。」

創世記 2:7

「主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。」

詩篇 104:29

「あなたが彼らの息を取り去られると、彼らは死んでちりに
帰る。」

伝道の書 3:21

「だれが知るか、人の子らの霊は上にのぼり、獣の霊は地
にくだるかを。」

MS 76 1900年 (スタディバイブル 1コリ15:42 - 52 EGW 参照)

「霊、人間の品性は、神に帰り保存される。復活においてすべての人は自分自身の品性を持つのである。」

キリストへの道83

「人間がどんなに知恵と技巧を注いでも、自然界の一番小さなものにさえ、その中に生命をつくり出すことはできません。」

人類のあけぼの上 34

「心臓が脈打ち、呼吸が続くのは、1度、始動させられた機構が、それ自体の力によって、動き続けるのではない。すべての呼吸すべての心臓の鼓動は、われわれが神のうちに『生き、動き、存在』していて、神の全体にみなぎる保護のもとにある証拠である。……草木が茂り、葉がもえ出て、花が開くのは、神の力によるのである。」

使徒行伝 17:25

「神は、すべての人々に命と息と万物とを与え…」

使徒行伝 17:28

「われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。」

詩篇 103:14

「主はわれらの造られたさまを知り、われらのちりであることを、覚えていられるからである。」

ガラテヤ 3:13

「キリストは、わたしたちのためにのろい(罪と死)となって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。」

詩篇 36:9

「いのちの泉(神の力)はあなたのもとにあり、われらはあなたの光によって光を見る。」

マタイ 8:8 - 10

「…ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります。…イエスは…イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない。」

ローマ 10:17

「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」

詩篇 33:9

「主が仰せられると、そのようになり、命じられると、堅く立ったからである。」

ヘブル 4:12

「神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と霊魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。」

教育 152

「すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。」

ヘブル 3:15

「きょう、み声を聞いたなら、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない。」

I テサロニケ 2:13

「これらのことを考えて、わたしたちがまた絶えず神に感謝しているのは、あなたがたがわたしたちの説いた神の言を聞いた時に、それを人間の言葉としてではなく、神の言として — 事実そのとおりであるが — 受けいれてくれたことである。そして、この神の言は、信じるあなたがたのうちに働いているのである。」

コロサイ 2:8

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。」

イザヤ 8:20

「ただ教(律法)とあかしとに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そこには夜明けがない。」

教育 14

「『善悪を知る木』……、悪の知識すなわち罪とその結果である苦勞、煩悶(はんもん)、失望、悲嘆、苦痛、死といったようなことは、愛のゆえに、彼らに知らされずにいた。」

教育 16

「善と悪がいりまじったために、彼の心は混乱し、彼の知的能力と靈的能力はまひした。」

生き残る人々 47

「人間は、神のあらわしたもうていることを理解しないで、神のあきらかな誠(いましめ)を無視し、神とは無関係な知恵をあこがれ、神が人間に与えることをさしひかえておられることを知ろうと努める。人間は進歩という考えに得意になり、自らのむなし哲学に心酔しているが、真の知識については真夜中の暗やみを手探りで進んでいる。彼らはたえず学んでいながら、決して真理の知識に到達することができない。」

人類のあけぼの上 45

「アダムは、罪を犯した後で、まず第1に、自分がこれまでより高い存在状態にはいったような気がした。しかし、間もなく、罪の意識は彼の心を恐怖で満たした。」

教育 268

「聖書研究でさえも、学校で行なわれている方法には、神のみ言葉という貴重な宝を世人から奪ってしまっている場合が非常に多い。いわゆる、「高等批評」なるものは、解剖し、推測し、組み直すことによって、聖書は神の啓示であるという信仰をぶちこわし、人の一生を支配し、高め、靈感づける能力を神のみ言葉から奪っている。」

I コリント 2:5

「それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。」

天地創造は文字通り7日間であったのか

人類のあけぼの上 30

「第1週のできごとが何千万年も要したとの仮説は、第4条の戒めの根底をくつがえすものである。もしそうだとすれば、創造主は、ばく然とした不明確な期間の記念として、文字通りの日々の週を守るように命じておられることになる。」

人類のあけぼの上 30

「聖書は、地球が長い時代を経てこんとん状態から徐々に進化したということを認めていない。聖書の記録は、創造週の1日1日が、その後のすべての1日と同様に、夕があり朝があったことを明らかにしている。」

ルカ23:54、56、24:1

「この日は準備の日であって、安息日が始まりかけていた。…それからおきてに従って安息日を休んだ。… 女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。」

出エジプト記 20:11

「主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休(やめる、完結)まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」

申命記 8:3

「あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせるためであった。」

ヨハネ 6:49 - 51

「あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。… しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。… わたしは天から下ってきた生きたパンである。」

出エジプト 3:5

「足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っている
その場所は聖なる地だからである」。

牧師への証 137

「主が祝福し、聖別された日に、主はその民に特別に近づかれる。」

詩篇 95:6

「さあ、われらは拝み、ひれ伏し、われらの造り主、
主のみ前にひざまずこう。」

各時代の希望下 294

「昔から預言しておられた万物更新の時」になっても、創造の安息日、すなわちイエスがヨセフの墓で休まれたこの日は、やはり休息と喜びの日となるのである」。

マルコ2:28

「…それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである」。

創世記 1:2

「神の霊が水のおもてをおおっていた。」（1日目）

ヨハネ 16:8

「それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。」

創世記1:3

「神は『光あれ』と言われた。すると光があった。」

Ⅱコリント4:6

「『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。」

創世記1:8

「神はそのおおぞらを天と名づけられた。」

ローマ5:20

「罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。」

人類のあけぼの上 1

「創造の力が現わされているものは、すべて、神の無限の愛の表現である。神の統治は、すべての造られたものへ、豊かな祝福を与えることを意味する。」

大争鬪下 467

「万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。」（将来、地球は神の栄光にてらされます。）

詩篇 150:6

「息のあるすべてのものに主をほめたたえさせよ。主をほめたたえよ。」